

2023 年度第 6 回価格審査会の開催について

2023 年度第 6 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2023 年 9 月 14 日(木) 10:00~12:00
場 所	本部 6 F 大会議室
委 員	田中 弘 日本工営ビジネスパートナーズ株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室 シニアエンジニア 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 栞原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリNZ・テクリスセンター長 早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2023 年度第 5 回価格審査会議事録(案) 確認

2023 年度第 6 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号</p> <p>「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号</p> <p>・価格が上伸した資材（工事費）</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>セメント（バラ）（仙台市ほか3都市）、レディーミクストコンクリート（室蘭市ほか35都市）、再生砕石類（室蘭市ほか5都市）、アスファルト混合物（佐渡市ほか9都市）、インターロッキングブロック（札幌市）、芝（札幌市）、建築用コンクリートブロック（仙台市）、燃料油（札幌市ほか62都市）、鉄スクラップ（岐阜市ほか33都市）ほか</p> <p>【土木コスト情報】</p> <p><市場単価>鉄筋工（青森県ほか17都市）、ガス圧接工（北海道ほか15都市）、防護柵設置工（ガードレール）（全国）、防護柵設置工（落石防護柵）（全国）、道路標識設置工（全国）、法面工（全国）、橋面防水工（全国）ほか</p> <p><土木工事標準単価>橋梁塗装工（全国）、構造物とりこわし工（全国）、連続繊維シート補強工（全国）、バキュームブラスト工（全国）、機械式継手工（全国）、耐圧ポリエチレンリブ管（ハウエル管）設置工（全国）ほか</p> <p>【建築コスト情報】</p> <p><市場単価>土工事（全国）、鉄筋工事（青森市ほか36都市）、圧接工事（札幌市ほか2都市）、コンクリート工事（打設手間）（仙台市ほか4都市）、コンクリート工事（ポンプ圧送）（札幌市ほか1都市）、型枠工事（全国）、左官工事（全国）、電線管工事（全国）ほ</p>

か
 <標準施工単価>鉄筋工事（青森市ほか36都市）、型枠工事（全国）、耐火被覆工事（全国）、左官工事（全国）、吹付工事（全国）、内装工事（壁・天井）（全国）、配線工事（全国）、照明器具工事（全国）ほか

・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

異形棒鋼（青森市ほか34都市）、H形鋼（青森市ほか38都市）、等辺山形鋼（青森市ほか38都市）、鋼板（青森市ほか41都市）、レディーミクストコンクリート（菊池市）、配管用ステンレス鋼鋼管（溶接管）（北海道地区ほか8都市）、非鉄スクラップ（大阪市）ほか

【建築コスト情報】

<標準施工単価>土工事（親ぐい横矢板工法）（仙台市ほか7都市）、土工事（山留め支保工）（広島市ほか1都市）

2. 比較資料

・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	建築コスト情報「金属工事 あと施工アンカー」の「全国 47 都道府県」が値上がりとなり値下がり両方に該当しているが、どのような状況か。	「金属工事 あと施工アンカー」は「全国 47 都道府県」価格を、メーカーから提供されたそのままの価格を「公表価格」として掲載している。今回、一部メーカーが値上げと値下げの両方を含む価格体系の見直しを行ったという状況である。
質問 2	主要 10 都市価格推移グラフを見ると、那覇地区が他地区と比較して高値で推移している資材が多いが、どのような理由があるのか。	那覇地区が他地区と比較して高値である場合が多い理由は、沖縄に生産拠点が無い資材は輸送費が加算されることや、全体需要が小さいので固定費の面で割高になりやすいという傾向にあることが挙げられる。
質問 3	コラムで「需要減少による販売店間の受注競争が激化」とコメントがあり、東京都 23 区でも下落している。都市部の再開は活発であると認識しているが、都市部でも需要は落ち着き減少し始めているということか。	今月下落しているコラムは中小物件向けが多い種類のコラムである。中小物件は盛り上がり欠けており、価格競争が発生して下落したという状況である。
質問 4	「インターロッキングブロック工」で北海道だけが今回値上がりしているが、北海道だけで値上がりした特別な要因はあるのか。	「インターロッキングブロック工」は、使用するブロック材料費や労務費の値上げ交渉の状況は地区ごとに異なり、各地区で異なる値動きとなっている。北海道独自の特別な要因があり値上がりしたのではなく、今月の調査では北海道だけで値上がり確認されたという状況である。

質問 5	道路用砕石類で全国的に上伸都市が多いなか、宮古市だけが下落している。どのような状況なのか。	宮古市は復興特需によって需要旺盛な時期に値上がりした後、需要が低迷する状況が続いていたものの価格は維持されてきた。しかし、ここに来て大型工事の発注を契機に価格競争が激化し下落した。
質問 6	建築コスト情報において同じ工種名で「市場単価」の括弧書きが付記してあるものと無いものがある。この違いはなにか。	同じ工種でもよく使われる主要規格を「市場単価」とし、補助的な規格を「標準施工単価」として掲載し、括弧書きの有無で区別している。「市場単価」は国土交通省の積算基準に準拠した規格で設定している。
質問 7	コンクリート型枠用合板の価格は下落傾向から横ばいになっている。型枠工事には「需要は堅調である」とのコメントがある。型枠工事の需要は堅調なのに、その材料であるコンクリート型枠用合板に値動きがないのはどのような状況なのか。	型枠工事の需要は堅調であるが、専門工事業者はコンクリート型枠用合板を在庫や転用を活用することで新規購入を行わず様子見している状況にある。合板の輸入量が大幅減少しており、需給にひっ迫感が強まってきているため、先行きは強含みである。
質問 8	防護柵設置工の補足コメントで、防護柵の違いによって「労務需給ひっ迫に伴う値上げ」と「材料費上昇を背景にする値上げ」と書き方が違っているが、使い分けているのか。	補足コメントは価格変動の主要因を記載している。今回の防護柵設置工では、変動要因が材料費の値上がりではなく人件費の影響である分類では、労務費に言及しているが、材料費の値上がりの場合は材料費に言及している。両方の影響が同程度の場合は材料費及び労務費両方に言及することもある。
質問 9	管柱杉 KD 材に関して東京と大阪に価格差がある。大阪では万博で木材を使用する工事が増えていると思われるが、この影響はあるのか。地域差の理由は何か。	東京と大阪の価格差は、市場環境や需給が異なる別市況であるために発生している。最近では東京が高い傾向が続いているが過去には大阪が高い時期もあった。大阪万博の影響は現在のところ確認されていない。パビリオン建設等で使用される木材が一般的な木材であれば需要の後押しとなるが、特殊な集成材の場合は別市況となるため影響は少ない。今後の動向を注視する。
質問 10	運搬コスト等が値上がりしている状況であると思われるが、建築コスト情報「建設廃棄物処理・処分費」の価格は変動しているのか。	「建設廃棄物処理・処分費」は、(公社)全国産業資源循環連合会 関東地域協議会の調査結果を転載している参考情報である。現在更新に向けた調査中であると聞いている。

質問 11	「ダクタイル鋳鉄製ボール型伸縮可とう管」における「全国（北海道、沖縄を除く）」の価格が、上伸と下落の両方に該当しているが、どのような状況か。	「ダクタイル鋳鉄製ボール型伸縮可とう管」の掲載資材は、主要メーカーによる価格改定の影響から、上伸した規格と下落した規格があったということである。
質問 12	「土木工事市場単価」の都市名称は、「都道府県」単位であるが、「建築工事市場単価」の都市名称は「都市」単位となっている。何か理由はあるのか。	「土木工事市場単価」と「建築工事市場単価」は国土交通省との協議を経て調査を開始した。「土木工事市場単価」では全国各地で価格を設定する必要があるため 47 都道府県で掲載した。「建築工事市場単価」では庁舎や事務所などの建築構造物が対象であるため都市部の価格として県庁所在地での掲載とした。また電気・機械設備などの工種も同様に全国主要 10 都市での掲載とした。
質問 13	異形棒鋼や H 形鋼等の鋼材製品の市況コメントを見ると、需要低迷しているなか、メーカー側は生産量を減らして安値販売を避け、流通筋が数量確保の受注競争を強いられている状況であり、流通筋が一番強いしわ寄せを受けていると解釈できる。建築工事市場単価における鉄筋工事やコンクリート工事の価格動向コメントからは、需要は堅調に推移しているなか、専門工事業者は高い稼働率を背景に値上げ交渉を行い、総合建設業者が工期を遵守するために値上げを受け入れている状況であるため、総合建設業者が強い負荷を負っていると解釈できる。それぞれの市場でこのような状況の解釈は妥当と言えるか。	現在の鋼材流通は、流通筋が利益を圧縮して対応している状況が多いと言える。建築の鉄筋やコンクリート工事の交渉状況は、総合建設業者が工期遵守ために値上げを受け入れている状況であるため、総合建設業者へのしわ寄せが強いと言える。しかし、個別の交渉においては、メーカーや専門工事業者も、業者間競争や手持ち物件などの状況等により、必ずしも優位になるわけではない。
審議結果	「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号 「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号の価格動向に問題はなかった。	

以 上